

第1回 和光市部活動地域移行検討委員会 議事録

日 時	令和6年3月25日（金）午前10時00分～12時00分
場 所	和光市民文化センター 展示棟 企画展示室
出席委員	寄口委員 朽木委員 新坂委員 高野委員 齋藤委員 塚田委員 佐藤委員 川端委員 粕谷委員

1 背景と現状

- R4.8に要綱を策定後、時間が空きすぎており、進捗が不明確。
- 和光市としてどこまで地域移行を進めるのか方向性が不明。

2 部活動の意義と課題

- 不登校児童の一部は部活動顧問の支えで学校生活を維持している事例あり。
- 大和中アンケート結果：やりたい2名、やっていい11名、できたらやりたくない11名、やりたくない20名。
- 経済的負担の前に自治体による支援体制の整備が必要。

3 条件整備と受け皿

- スポーツ少年団は18歳まで活動可能。サッカーはライセンス保持者多数。
- ソフトテニスでは未経験教員が努力して指導してきたが、外部指導者との摩擦も発生。
- ソフトテニス連盟に遊びに来る子どももあり、指導者ライセンスの必要性が指摘

4 大きな方向性

- 教員依存型の部活動運営は限界。地域の力を活用する必要あり。
- 行政として財源確保（補助金・企業連携）を検討。
- 指導者への報酬確保が課題。
- 少子化・子どもの多忙・教員の多忙に対応するため、地域移行を推進。

5 検討事項

- 企業参入は有償か無償か。
- 部活動種目は毎年変動するのか。
- 移行のスケール感を明確化し、県や国の動向を確認。
- 実際に動き出している企業の事例を調査。
- 方針：小規模で試行 → 検証 → 拡大・修正。